

被爆作家による原爆文学を —栗原貞子、原民喜、峠三吉— **世界記憶遺産に**

絵・四國五郎



「世界記憶遺産」は、歴史的な文書、絵画、音楽、映画など世界の貴重な記録遺産を保存し、利用・活用することで、その遺産を保護し、促進することを目的としたプログラムで、1992年から開始された。

「世界遺産」「世界無形文化遺産」と共に、ユネスコが所管する三大遺産事業のひとつですが、日本では2011年に「山本作兵衛コレクション」（田川市）が初めて登録されたことで話題となりました。

私たち「広島文学資料保全の会」は、広島を中心とした近代の日本や世界の文学活動・交流の歴史的研究を目的とし、それに必要な資料を収集、保存、展示、などの活動を行ってきました。

なかでも原爆文学は、被爆作家が命を賭して八月六日の惨状を文学作品として著した、人類にとっても貴重な財産です。今年には被爆70年。広島から世界へ平和のメッセージを届けるために、三人の作家・詩人の資料を「世界記憶遺産」に登録申請することとし、多くの市民の理解と協力をいただくため、次のように「文学展・シンポジウム」の企画をたてました。

多くの皆さま方のご支援・ご協力をよろしくおねがいします。

*支援の輪を広げてください。ポストカード（1セット3枚・300円）好評発売。

記憶遺産に向けて『栗原貞子、原民喜、峠三吉文学展』

2015年6月2日～14日 <市民交流プラザ1階ロビー> (中区袋町)

登録申請予定の栗原貞子「生ましめんかな」創作ノート、原民喜の小説「夏の花」のもととなった被爆時の手帖、峠三吉「原爆詩集」最終稿を中心として、周辺の記録を展示する。

シンポジウム・原爆文学の今を考える

2015年6月13日(土)14時～17時30分

<YMCA2号館コンベンションホール> (中区八丁堀)

<講師>

安蘇龍生さん（「田川市石炭・歴史博物館」館長 田川市在住）

古田陽久さん（「世界遺産総合研究所」所長 広島市在住）

水島裕雅さん（「広島文学資料保全の会」顧問、広島大学名誉教授 千葉在住）

クレアモント康子さん（シドニー大学准教授・日本文学研究者 シドニー在住）

国内外から四人のパネリストを招き、原爆文学を世界遺産に申請する意義、三人の作品の資料的価値、記憶遺産登録へ向けてなすべき点など、多角的に論じてもらう。

海外の研究者の視点も欠かせず、オーストラリアからクレアモント康子氏を招聘する。

当初予定していた会場「市民交流プラザ」が借りられず変更しました。

ご意見をお寄せください。

広島文学資料保全の会 広島市中区本川2丁目1-29-301 電話・FAX 082-291-7615

Eメール m-ike@y7.dion.ne.jp

原爆文学資料記憶遺産申請にむけて、 次のようなメッセージが寄せられています

未来への警告と希望

栗原貞子、原民喜、峠三吉原爆文学を世界記憶遺産に登録して原爆の残虐さ、人々の悲嘆、未来への警告と希望を比類のない感動的な言葉で伝える三人の作品を保存し世界中で活用させることは広島と長崎が記憶の隅に退いた現在の私達の責務であると思う。

ジョン・W・ダワー（マサチューセッツ工科大学名誉教授）

世界の歴史にとって重い意味

私たちは核時代に生きている。

原民喜・峠三吉・栗原貞子をはじめ広島文学の作家や詩人は被爆証言を残した。これらは、日本だけでなく世界の歴史にとって最も重い意味を持つ。かれらの手書き原稿は、「世界記憶遺産」にぜひとも登録されるべきである。

リチャード H. マイニア（マサチューセッツ大学名誉教授）

忘却に抗して

広島への原爆攻撃は、不条理な暴力による殺戮であった。これが倫理を逸脱した不法行為であったということを記憶し続けられない限り、人類はこれからも同じ苦しみを味わうであろう。

原爆文学関連資料は、「被爆の記憶」を人類共有の記憶とする貴重なものである。その「世界記憶遺産」登録は、時の流れに伴う「忘却」に抗して、被爆の実態を後世に伝えようと努力しているヒロシマを勇気づける。

平岡敬（元広島市長）

時代の本質を見る観察眼

原民喜、峠三吉、栗原貞子らの原爆被災時のノート、創作メモ、草稿類は、時代の本質を見る観察眼を持つ、言葉に最も鋭敏な文学者の残した、繰り返してはならない8月6日の記録、証言、告発であり、祈りでもある。被爆70年、これらの資料がユネスコの記憶遺産になることを心から願う。

岩崎文人（広島大学名誉教授、ふくやま文学館館長）

これこそ世界記憶遺産にふさわしい貴重な記録

一九九九年、米バージニア州のニュース博物館「ニュージウム」が米国のジャーナリストらによって選ばれた二〇世紀の「100大ニュース」を発表したが、第一位は「広島・長崎への原爆投下」であった。広島・長崎の市民が被った原爆被害こそ、二〇世紀で最も注目されるべき出来事であったのだ。核兵器による、このかつてない非人道的な惨劇をこれまで伝え続けてきたもの一つに文学作品がある。とりわけ、広島で被爆した栗原貞子、原民喜、峠三吉らの作品は自身の体験に基づく作品だけに、被爆の惨状を伝えてあますところがない。これらは、人類が永久に忘れてはならない記録であり、まさに世界記憶遺産にふさわしい貴重な資料と言える。

岩垂 弘（ジャーナリスト）

人類の未来に思いを馳せ

今年（2015年）は被爆70周年の年ですが、被爆者の高齢化とともに被爆体験の風化が大きな問題となっています。この問題を克服し、世界に核戦争の危険に対する警鐘を伝えるために、私たちは原爆文学を世界記憶遺産に登録することを提案しています。

今回選ばれたものは、原民喜の「原爆被災時のノート」と呼ばれる手帳、峠三吉の「原爆詩集」の最終原稿、栗原貞子の「生ましめんかな」の原稿などです。

原民喜は原爆被災の体験を手帳に書きしるし、のちに「夏の花」などの小説や詩にまとめました。峠三吉は自らの被爆体験と、思慕していた女性の悲惨な被爆死を介護した体験をもとに原爆詩を書き始め、のちに「原爆詩集」にまとめました。栗原貞子は自ら被爆したあとで、近所の人から聞いた話をもとに「生ましめんかな」という詩を書きました。それは廃墟と化した広島建物の中で赤ちゃんが生まれるという詩で、新しい時代への希望を伝えました。これらはいずれも名作のもとになったものであり、作家たちの創作過程が伺える貴重なものです。彼らは戦前から作家活動を始めましたが、被爆体験を経て人類の未来に思いを馳せ、世界の平和と核兵器の廃絶を祈る作家となったのです。

水島裕雅（広島大学名誉教授・広島文学資料保全の会顧問）

賛同呼びかけ人

（50音順・アルファベット順）＊2015年4月1日現在

浅井基文（元広島市立大学平和研究所所長）
足立直子（広島女学院大学准教授）
安蘇龍生（田川市石炭・歴史博物館館長）
石岡修（広島平和教育研究所理事長）
伊藤真理子（詩人） 岩垂弘（ジャーナリスト）
岩崎文人（ふくやま文学館館長・広島大学名誉教授）
大井健地（広島市立大学名誉教授） 金子兜太（俳人）
川村晃生（慶応大学名誉教授）
黒古一夫（文芸評論家・筑波大学名誉教授）
黒瀬真一郎（前広島女学院理事長）
田中利幸（広島市立大学教授）
中西巖（旧被服廠の保存を願う懇談会代表）
成定薫（広島大学名誉教授）
西田勝（文芸評論家・非核ネットワーク世話人）
西原大輔（広島大学教授・詩人）

平岡敬（元広島市長） 舟橋喜恵（広島大学名誉教授）
古田陽久（世界遺産総合研究所所長）
御庄博実（詩人・医師＊故人）
水島裕雅（広島大学名誉教授）
アーサー・ピナード（詩人）
クレアモント 康子（シドニー大学准教授）
ジョン W. ダワー
（マサチューセッツ工科大学名誉教授）
ノーマ M. フィールド（シカゴ大学名誉教授）
リチャード H. マイニア
（マサチューセッツ大学名誉教授）
ヴォルフガング シャモニ
（ハイデルベルク大学・日本学主任教授）